

1. 2024 年 4 月～2024 年 9 月事業報告

【はじめに】

今年度から、広島中央保健生協居宅介護事業所、訪問看護ステーション生協コスモス、広島中央保健ヘルパーステーション、生協かんおん 24、介護事業部事務が一つのフロアになり、より連携が取りやすい環境になりました。4 月からかんおん 24 に新入職員 1 名が加わり、中央ヘルパーステーション、かんおん 24 のスタッフ合わせ 11 名になりました。以前からヘルパー群の一体化を目指して進めていましたが、なかなか思うように交わることができませんでした。しかし他職種と同じフロアになることで、情報の共有や、意見交換等が活発になり、お互いの距離もぐっと近くなりました。

定期巡回の訪問をヘルパーステーションの常勤が訪問したり、ヘルパーステーションの利用者の訪問をする等協力ができるようになった。

■介護度別 利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
要介護 1	8	8	8	10	9	8
要介護 2	8	8	7	5	4	4
要介護 3	3	3	3	3	5	5
要介護 4	5	5	5	6	6	6
要介護 5	1	1	1	1	1	1
計	25	25	24	25	25	24
随時対応	1	2	2	45	3	2
随時訪問	11	17	10	12	17	17
平均介護度	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4
中止	0	0	1	1	0	3

随時対応

- ・地震が怖くてキッズ携帯のヒモを引っ張ってしまった。
- ・便が出ない ・何時に来る便が出そう ・早めに来て

随時訪問

- ・排泄 58 回 ・転倒、転落 9 回 ・体調が悪い、しんどい 5 回 ・急な買物 1 回
- ・弁当がこぼれた 1 回 ・玄関の鍵が開かない 1 回 その他
- 家族、ヘルパーステーションからの依頼 4 回
- ・せん妄が出ている。助けて ・電話が通じない心配 ・電話をしたら体調が悪そう
- ・ヘルパーステーションから電話の受話器が上がっているのが心配

せん妄が出ている人の対応はどうしていますか？・・否定しない。話に寄り添う。

玄関の鍵が開かなかったのは？・・居住は 6 階でしたが、5 階に部屋のドアを開けようとしていた。

離れている家族にはとても安心ですね。

訪問看護ステーションと連携で利用者

居住地域

福島町、南観音町、観音町、己斐大迫、己斐本町、国泰寺、中広町、打越、田方、井口、新庄町大宮 遠いところまで巡回していますね。・・井口、田方はバイパスに乗ると以外に早くいける。国泰寺も平和大通りをまっすぐなので近い。

主なニーズ

・認知症で独居、定期的な服薬・食事の提供、生活全般を支援してほしい、後遺症があり排泄に介助が必要、家族の負担軽減のため毎日の排泄・移乗の支援が欲しい、転倒していないか安否確認で訪問してほしい、等

サービス内容

・排泄介助、更衣介助、移動・移乗介助、洗濯、掃除、ゴミ出し、服薬介助、配食温め、配膳、下膳、買い物、入浴介助、足浴、清拭、水分摂取、安否確認、等 入浴や食事介助は時間がかかる。

入浴介助は五日市のヘルパーステーションに依頼し訪問してもらっている。

*連携居宅・・・ケアプランセンターカシス・土谷居宅介護支援事業所西広島・菱和居宅介護支援事業所・ベネッセ介護センター広島・広島中央保健生協居宅介護支援事業所・井口台介護ステーション・めぐみ居宅介護支援事業所己斐・もみの木居宅介護支援事業所。

*連携訪問看護・・・訪問看護ステーションコスモス・訪問看護ステーションかもめ・訪問看護ステーション比治山 前年度に比べ連携している訪問看護ステーションが減ったのは？定期巡回での訪問はしない方針と言われる。

上半期の動向

収益と利用者数

新規問い合わせが 18 件(夜間対応 2 件)、他居宅から 9 件と法人内から 9 件で、利用開始に繋がったのは 10 件でした。法人内の協力もあり、前年度より大幅に利用者数が増え、収益では前年度予算を上回りました。上半期の平均介護度は 2.3 で前年度とほぼ変わりありませんが、利用者が増えたことで前年度の収益を上回りました。

利用者数が伸びたのは法人内の協力があつたから。予算の 3 倍の利益があつた。

サービスエリアについて

実施地域は昨年と変わらず、西区井口から西区新庄、大宮までのルートを巡回しています。今後、利用者を増やすにあたり、生協くさつ 24 のエリアでもある井口方面は、くさつ 24 への移行も検討し(受け入れ可能になれば)、井口・井口台を除く西区を中心に効率の

良いルート作りが必要です。可能であれば井口方面、中区方面も検討します。

くさつ 24 が新規を受けられない時はかんおん 24 で受ける。どちらかが受けるようにする。

けんこうプラザ所長会議開催(毎週金曜日)

各事業所がワンフロアになったことで他職種の連携、事例の紹介、取り組を地域や他居宅介護支援事業所、包括支援センター、介護施設、病院等に発信するケアニュースを作成しています。それぞれの職種が自分の役割をこなす事だけを考えるのではなくチームケアを提供することが求められています。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるように「地域包括ケアシステム」の実現を目指しています。

10月ケアニュースを紹介する。

これだけの情報はどんなサービスをしているのかわかりにくい。と思うのですが・・・

地域・他職種の連携を完結にまとめました。これは10月号ですが、毎月発行しています。100歳体操の会場でケアニュースを紹介していただけますか？

毎月ケアニュースを紹介頂く事になった。毎月の発行を通じ各事業所の取り組みや、事例の紹介を通じて、地域の方に介護事業の役割を知って頂きたい。

上半期は利用者数が増え、スタッフ7名(内2名は管探して見たわ。ギリギリの状況で休憩時間もままならない状況でした。ヘルパーステーションの協力で常勤ヘルパー、パートヘルパーに訪問を依頼し何とか回ることができています。介護業界はどの事業も人員不足です。介護職員が働きやすい環境を整えることも人手不足解消になる取り組みです。忙しいからこそコミュニケーションを密にし、安心して仕事に取り組めるよう連携を詰っていきたいと思います。人手不足が心配ですね。

訪問看護では法人内の訪問看護ステーションで人員が不足している所に

行くなどして協力しているように、訪問介護も同じ様に協力できる体制を目指して行きたいとおっている。

介護・医療連携推進会議 出席者

寄本 克枝様	観音町西町内会 観音民児協	090-5709-9332	FAX 232-7889
平野 千代子様	西観音町北町内会 観音民児協	090-4653-0645	FAX 231-9047
高橋 陽子様	訪問看護ステーション生協コスモス所長	532-1375	FAX532-1376
松井 拓也様	広島中央保健生協居宅介護支援事業所管理者	292-0852	FAX 292-0918
福岡 博聖様	広島市観音地域包括支援センター主任 介護支援専門員	292-3582	FAX292-3172

